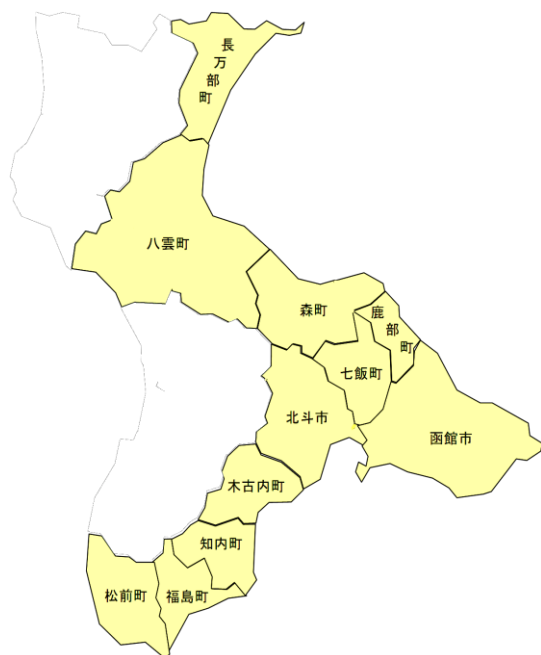


渡島の現況

2019



渡島の由来

道南の地には古くから倭人が渡って来ていましたが、鎌倉時代から南北朝、室町時代になると、戦乱や飢饉などから逃れて渡来するものが増え、また、奥羽、北陸地方の漁民などに未開の新天地として注目されるようになりました。これらの人々を当時、渡り党(島)と称し、渡島(おしま)の名もそこから始まったと言われます。

明治2年、松浦武四郎は北海道の国郡名の案を考えて建議書を提出し、同年の11国86郡設置のおり、当地は「渡島国」と名づけられました。

INDEX

■ 渡島のすがた	
地勢・気候・人口	1
■ 渡島の交通	
道路	2
港湾・空港	3
鉄道～北海道新幹線～	4
■ 渡島の産業	
農業	5
水産業	6
林業・木材産業	7
商工業	8
観光	9
■ 渡島のくらし	
環境保全・自然環境・生活	10
保健・医療	11
社会福祉	12
■ 渡島の教育・文化	13
■ 渡島の国際交流	14
■ 渡島の防災	15
■ 渡島の市町村	
函館市・北斗市	16
松前町・福島町	17
知内町・木古内町	18
七飯町・鹿部町	19
森町・八雲町	20
長万部町	21
■ 青函交流	22
■ 渡島の北海道遺産	23

□表紙写真【国宝「中空土偶」】

渡島総合振興局では、世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」をはじめとする管内の縄文文化の素晴らしさや魅力に関する地域住民の理解促進や縄文ファン拡大に向けた取組を展開し、地元の一層の気運情勢を図るとともに、縄文資源を活用した旅行商品や土産物などの開発・販売を促進していくことにより、地域の観光振興に繋げていく取組を進めているところです。

平成19年6月に北海道唯一の国宝に指定された土偶(中空土偶)は「茅空(カックウ)」の愛称で親しまれ、穏やかな表情、巧みな幾何学模様などから国内外で人気を集めており、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けたPRに一役を担っています。

□裏表紙【「持続可能な開発目標(SDGs(エスディーゼーズ))」】

2015年9月、国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17のゴール(目標)と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられました。

SDGsは、2030年までに先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の目標です。

□裏表紙【その先の、道へ。北海道】

北海道のキャッチフレーズ！北海道には様々な可能性が広がっていること、そして、北海道が未来や世界に積極的に進んでいこうとする動きを表現した言葉です。



北海道新幹線つなげる応援大使

どこでもユキちゃん